

サブドレン他水処理施設の状況について

2016年8月25日



東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

1. サブドレン他水処理施設の概要



■ サブドレン他水処理施設は、集水設備、浄化設備、移送設備から構成される。

＜集水設備＞

[サブドレン集水設備](#)

1～4号機タービン建屋等の周辺に設置されたサブドレンピットから地下水をくみ上げる設備

[地下水ドレン集水設備](#)

海側遮水壁と既設護岸の間に設置された地下水ドレンポンドから地下水をくみ上げる設備

＜浄化設備＞

[サブドレン他浄化設備](#)

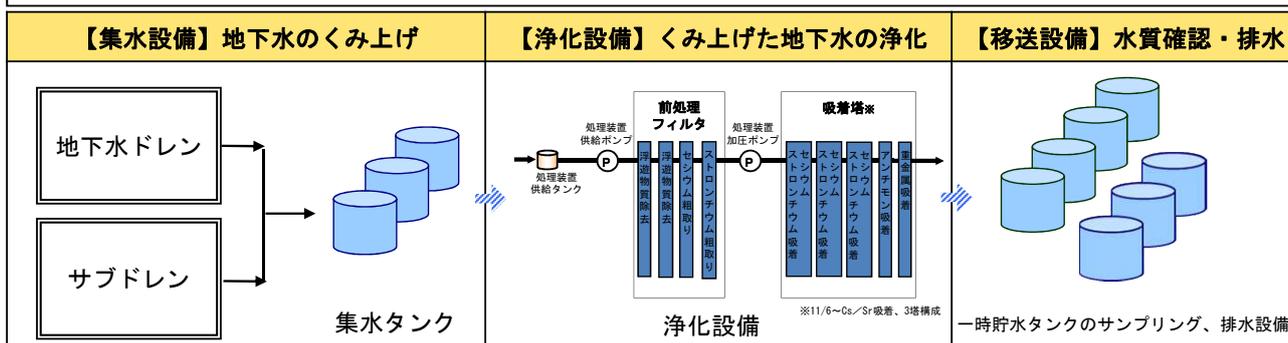
くみ上げた水に含まれている放射性核種（トリチウム除く）を十分低い濃度になるまで除去し、

一時貯水タンクに貯留する設備

＜移送設備＞

[サブドレン他移送設備](#)

一時貯水タンクに一時貯留した処理済水を水質分析した後、排水する設備

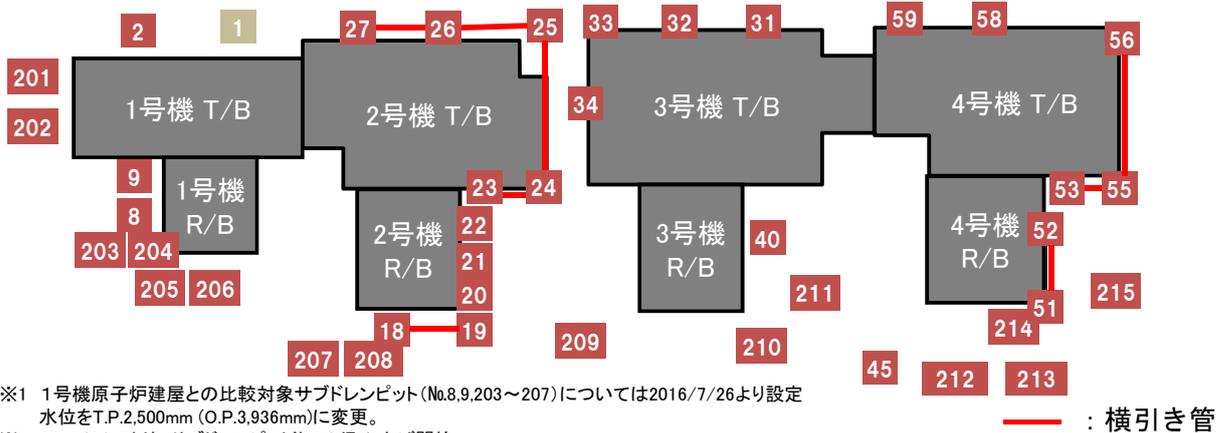


©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

2-1. サブドレンの汲み上げ状況（24時間運転）

- 山側サブドレンL値をT.P.5,064 (O.P.6,500)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年9月17日～
L値設定：2016年3月10日～ T.P.2,500 (O.P.3,936)で稼働中。 ※1
- 海側サブドレンL値をT.P. 4,064 (O.P.5,500)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年10月30日～
L値設定：2016年3月2日～ T.P.2,500 (O.P.3,936)で稼働中。 ※2
- 一日あたりの平均汲み上げ量：約400m³（2015年9月17日15時～2016年8月23日15時）

■ ：稼働対象 ■ ：稼働対象外

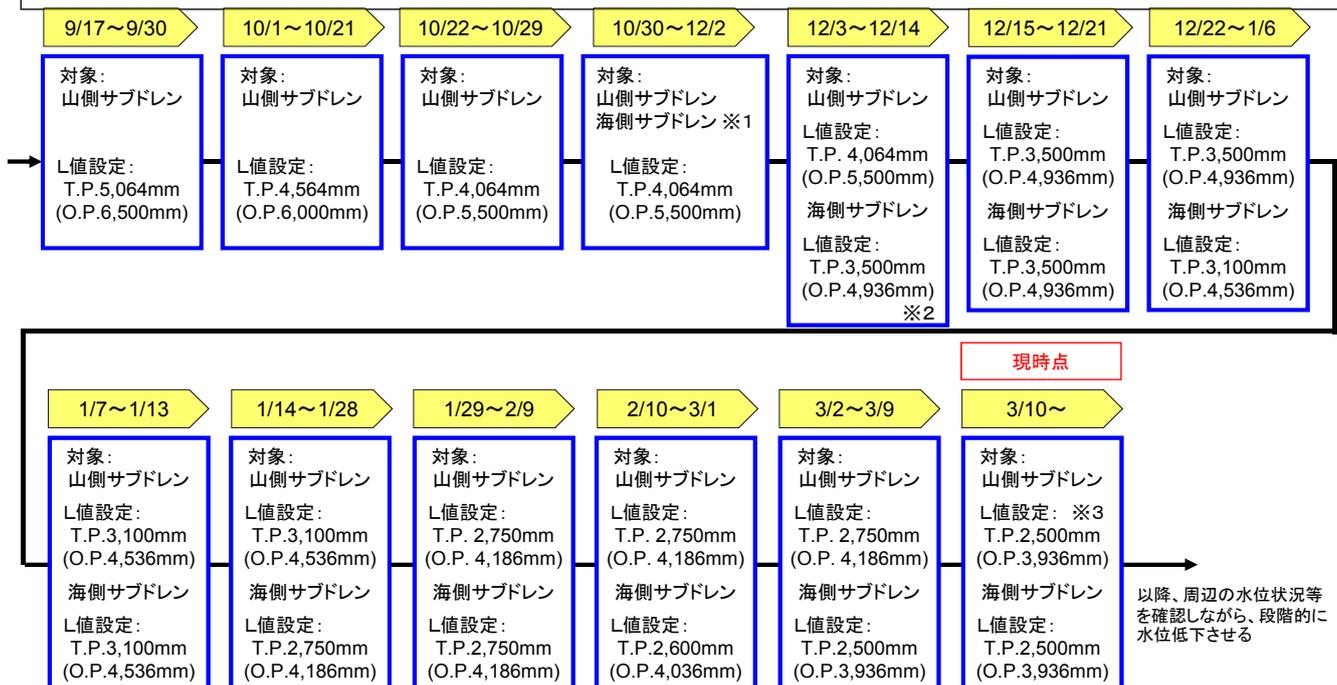


※1 1号機原子炉建屋との比較対象サブドレンピット(No.8,9,203～207)については2016/7/26より設定水位をT.P.2,500mm (O.P.3,936mm)に変更。

※2 2016/7/12より、サブドレンピットNo.2の汲み上げ開始。

2-2. サブドレン稼働状況

- 2015/9/17より山側サブドレン24時間稼働を開始し、以降段階的水位低下を実施。



※1 2015/11/17より、T.P.3,964mm (O.P.5,400mm)で稼働。

※2 2015/12/3よりNo.201,202,23,24,25,26,27,32,33,34,53,55,58の設定水位をT.P.3,500mm (O.P.4,936mm)に変更。

※3 1号機原子炉建屋との比較対象サブドレンピット(No.8,9,203～207)については2016/7/26より設定水位をT.P.2,500mm (O.P.3,936mm)に変更。

3. 至近の排水実績

- サブドレン他浄化設備は、2015年9月14日に排水を開始し、2016年8月23日までに216回目の排水を完了。排水量は、合計172,520m³。
- 一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標（Cs134=1, Cs137=1, 全β=3, H3=1,500(Bq/L)）未満である。

排水日		8/17	8/18	8/19	8/21	8/22	8/23
一時貯水タンクNo.		C	D	E	F	G	A
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	8/10	8/12	8/14	8/15	8/16	8/17
	Cs-134	ND(0.74)	ND(0.68)	ND(0.55)	ND(0.77)	ND(0.79)	ND(0.70)
	Cs-137	ND(0.56)	ND(0.56)	ND(0.72)	ND(0.69)	ND(0.63)	ND(0.64)
	全β	ND(0.63)	ND(2.0)	ND(0.24)	ND(2.2)	ND(2.4)	ND(2.4)
	H-3	360	380	390	380	390	380
排水量(m ³)		597	963	977	978	982	716
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	8/8	8/10	8/11	8/13	8/14	8/15
	Cs-134	6.4	11	7.9	10	12	6.5
	Cs-137	59	45	51	64	60	47
	全β	150	—	—	—	—	170
	H-3	450	430	400	390	400	440

*NDは検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。
 *運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を1 Bq/Lに下げて実施。
 *浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

4. 地下水ドレン水位と港湾内海水中放射性物質濃度の推移

▶ 海側遮水壁閉合前後における地下水ドレン水位と、1～4号機取水路開渠内南側（遮水壁前）海水中放射性物質濃度の推移を下記に示す。

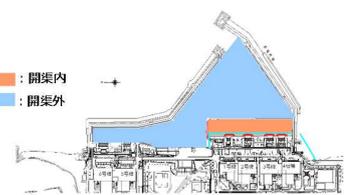
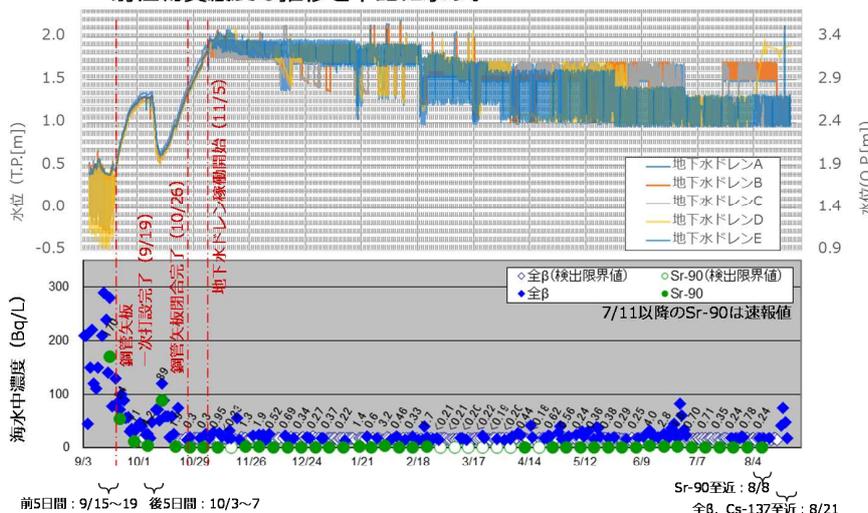


表 1～4号機取水路開渠内及び開渠外の測定地点における海水中放射性物質濃度平均値 (Bq/L)

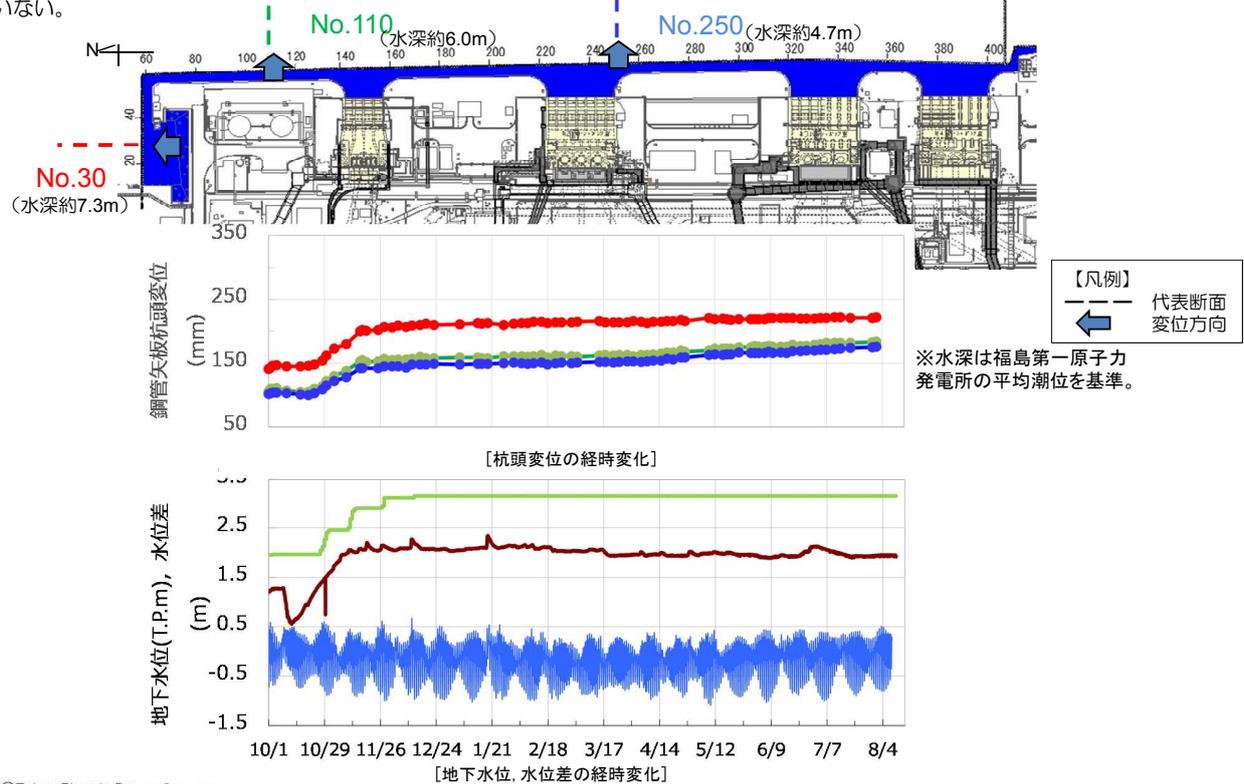
		前5日間	後5日間	至近
		平均値 ^{※1}	平均値 ^{※2}	平均値 ^{※3}
全β	開渠内	150	26	21
	開渠外	27	16	16
Sr-90	開渠内	140	8.6	0.24
	開渠外	16	2.1	0.070
Cs-137	開渠内	16	3.8	12
	開渠外	2.7	1.1	3.0
H-3	開渠内	220	110	5.8
	開渠外	1.9	9.4	1.6

※1 H-3については、前5日間のデータがないため、前10日間の平均値
 ※2 後5日間は、地下水ドレン水位が一定及び降雨がない期間を選定
 ※3 全βとCs-137は8/21, Sr-90開渠内(速報値)は8/8, Sr-90開渠外は7/11, H-3は8/8に採取した各地点の平均値(港湾口H-3については、8/8は悪天候のため試料採取できず、8/10の値を用いた)

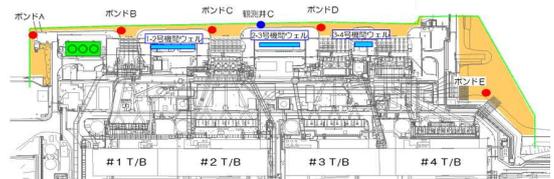
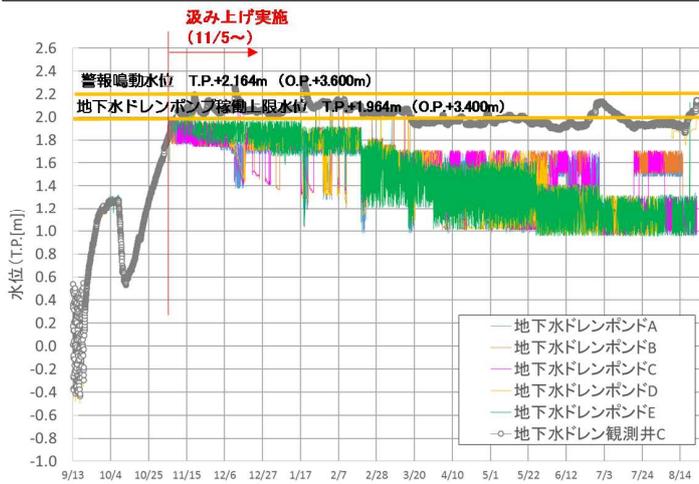
図 地下水ドレン水位と1～4号機取水路開渠内南側（遮水壁前）海水中放射性物質濃度の推移

- ▶ 鋼管矢板打設により地下水ドレン水位が上昇し、海水中の全ベータ、ストロンチウム濃度低下や、セシウム、トリチウムも低い濃度で推移していることから、海側遮水壁の効果は発揮されている。
- ▶ 豊水期に入っていることから、地下水ドレンの稼働水位を下げ、地下水位を低下させている。
- ▶ 今後もモニタリングを継続する。

▶ たわみに伴い生じた鋼管矢板杭頭変位については、引き続き、傾向を確認していく。なお、既往最大水位差を越える水位差は生じていない。



■ 海側遮水壁の閉合以降、地下水ドレンポンド水位が上昇したことから、11/5より汲み上げを開始。



サブドレン集水タンク及びT/B移送量 (m³/日平均)

	地下水ドレン				
	ポンドA ポンドB	ポンドC ポンドD	集水タンク	ポンドE T/B	集水タンク
移送先	T/B	T/B		T/B	
7/26 ~ 8/1	53	0	88	0	23
8/2 ~ 8/8	53	0	43	0	79
8/9 ~ 8/15	59	0	108	0	29
8/16 ~ 8/22	146	5	136	11	92

ウェルポイント移送量 (m³/日平均)

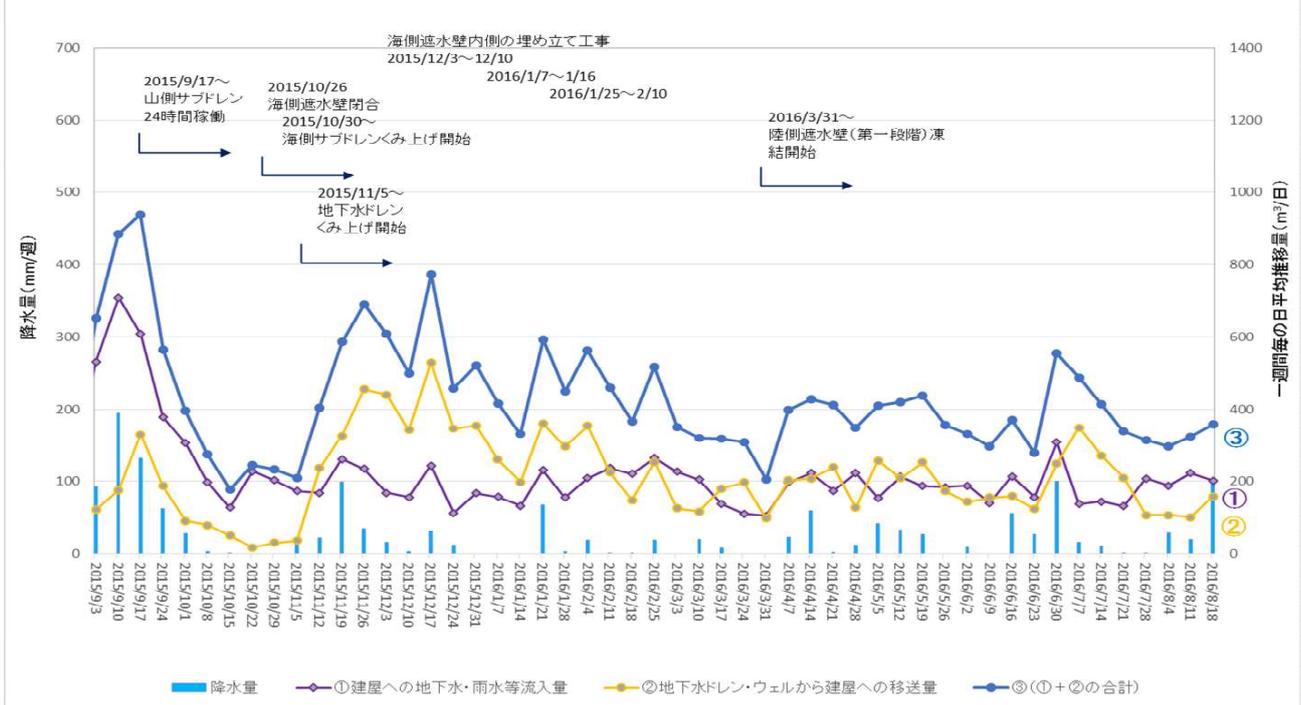
	ウェルポイント		
	1-2号間	2-3号間	3-4号間
移送先	T/B	T/B	T/B
7/26 ~ 8/1	51	1	1
8/2 ~ 8/8	46	2	1
8/9 ~ 8/15	49	0	0
8/16 ~ 8/22	78	60	12

※移送先のT/Bはタービン建屋、集水タンクはサブドレン集水タンク



※水位 (O.P.) は、震災前標高と比較しやすいよう、目安として記載しているもの。
 (水位 (T.P.) を水位 (O.P.) に換算する場合は、約1.4m~1.5m加算する。)
 ※水位計点検時の水位データは除く。

- 地下水・雨水等の建屋への流入量は、サブドレン稼働以降に低減し、安定的な状態が続いている。(下図①)
- 地下水ドレン等から建屋への移送量は海側遮水壁の閉合に伴い一時的に増加したものの、減少傾向。(下図②)
- 建屋への流入量(①)と移送量(②)の合計は、1/18の降雨により一時的に増加していますが、昨年末以降、減少傾向にあります。(下図③)

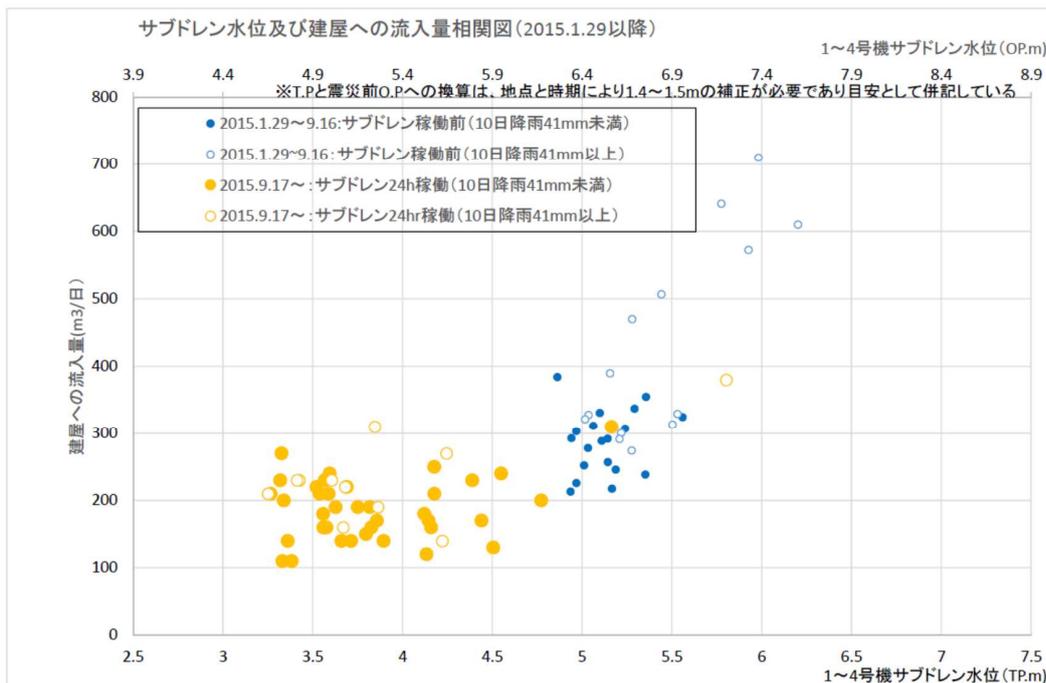


©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

<参考4> サブドレン稼働後における建屋流入量評価結果 (1-4号機サブドレン水位)

2016.8.18現在

- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位と相関が高いことから、サブドレンの水位(全孔平均)でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働によりサブドレン水位がTP3.5m程度まで低下した段階では、建屋への流入量は150~200m³/日程度に減少している。



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

2016.8.18現在

- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位-建屋水位とも相関が高いことから、サブドレンの水位(全孔平均)-建屋水位でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働により水位差が2m程度まで低下した段階では、建屋への流入量は150~200m³/日程度に減少している。

